

今年8月5日、群馬県伊勢崎市でかつて経験したことのない国内最高気温を更新する**41.8度**を観測した。茨城県、埼玉県、栃木県や、東京青梅市でも40度超えを観測し、全国289の観測点で35度以上と、連日日本列島に猛暑日が続く。夏の気温は40度が当たり前、日本の夏は猛暑と豪雨、気候的には日本が世界一過ごしにくい国になりつつあり今後も加速すると思われる。いまや日本は伝統の「春夏秋冬」の四季から「春」と「秋」がなくなり「夏冬」の二期になってきている。その一因となっているのが、CO2 ガスの排泄量増加による「地球温暖化」である。近年は「観測史上最も暑い春と夏」がほぼ毎年繰り返され、日本では熱中症で毎年1000人規模の人が亡くなっている。この数は風水害による死亡者の10倍。まさに「**殺人的猛暑**」と言える。

海外でもロサンゼルス(ロサンゼルス)の山火事、オーストラリアの山火事、スペインの豪雨等、異常気象が原因と思われる大きな災害が各国で発生している。

何故こうなった・・・？

1. 「地球温暖化」による世界全体の海面水温の上昇

日本の太平洋側に流れる「黒潮」は本来ならば、南西諸島から北上し、紀伊半島沖を東に抜けていくが、偏西風の蛇行に伴い「黒潮大蛇行」が起こり北海道近くまで北上し、北海道周辺の海面水温は5度以上高くなっている。上昇した海水は冬まで高温が持続する。地球の面積の7割が海である。世界で最も上昇しているのは日本近海。世界全体の平均では0.6度↑、日本周辺では時と場所によっては10度↑も高い海域がある。2度上昇でも異常気象をもたらす、海産物の収穫にも異状をきたしている。

2. 偏西風の蛇行

偏西風とは、ジェット気流と呼ばれる飛行機が飛ぶ高さ位の上空を西から東に向かって吹いている秒速80メートルにも達する風で、寒気と暖気の境目に吹いていて、この北側には寒気、南側には暖気がある。通常は偏西風の流れのパターンは緩やかに南北に揺れながら軽く波を打って流れるが、これが近年流れの速度が遅くなったため、大きく蛇行したまま固定され、ちょうど日本列島の上空で大きく北向きに蛇行したまま留まっているため、常に太平洋側に暖気が停滞したままになっている。これが猛暑を引き起こしている。

3. 北極温暖化加速

地球温暖化によって、北極の海氷が急激に溶け始めている。またシベリアやアラスカの大陸に積もった雪も急激に溶け始め、同時に永久凍土（地面が凍った状態）もどんどん溶け始めている。問題なのは、永久凍土の中には、二酸化炭素よりも圧倒的に強い温室効果ガスであるメタンガスが貯蔵されており、永久凍土が溶けると、メタンガスが大気中に放出され、爆発的に温暖化を促進する事である。実は今、世界で一番温度上昇が激しい地域は北極圏である。

日本に住むほとんどの人は、「北極温暖化加速」について知らないか、あるいは知っていても、白熊が可哀そうくらいの感覚かも知れないが、「北極温暖化加速が日本の気候まで大きく変えている」と聞いたら、他人事ではないと思う。「偏西風の蛇行」について先に述べたが、「北極温暖化加速」が北極の温度を上昇させ、赤道との温度差が縮まったために蛇行が激しくなっているのである。

日本は欧米に比べて温暖化やそれに伴う異常気象に無関心な人が多いようで、異常気象はライフラインを直撃し、食糧問題にもまた物価上昇に直結する事を鑑み、今すぐ「温室効果ガス」を削減する必要がある。それが「地球温暖化」を防ぐ根本療法なのです。

異常気象の危機は、これから先の「自分事」です。「子供や、孫事」です、「熱心な人が一人」いるより、「協力する百人」にしないと限りなくゼロに等しいのです。地球は熱慣性が大きいので、仮に今から全世界でCO2ガスを減らし始めても、その効果が表れるのは20年後だと言われています。遅くなればなる程、異常気象は止める事は出来ずに、逆に益々進行してしまいます。

何でもいい、今日からできる「温室効果ガス削減対策」を実行し「地球温暖化」を防ごう。

例：節電、節水、節ガス、食品ロス削減、
ゴミ削減、
省エネ家電利用、再生可能エネルギー活用、
車利用⇒電車、自転車利用、エスカレーター・エレベーター利用⇒階段、カーテン⇒断熱カーテン、アルミサッシ窓枠⇒断熱窓、

参考：立花義裕著「異常気象の未来予測」